

ジルコニアの臨床応用 Vol.5

今を遡ること半世紀前、メタルボンドに始まった歯科用セラミックの流れは、その後アルミナの登場や様々な紆余曲折と進化を経て現在、**ニケイ酸リチウムガラス**、**酸化ジルコニウム**の二大材料を主体とする様になってきました。またCAD/CAMの技術発展により、近年では前述の材質によるフレームに陶材築盛～焼成という従来型の概念にとられない、フルアナトミカルクラウンも台頭してきています。日々診療にあたられている先生方も様々な情報が溢れ、患者様の高まるニーズに答えたいと思う一方、個々の症例に対する材料選択等で悩まれることはありませんか？

そこで今回、毎年数多くのセラミック補綴治療を手がけられている、福岡県ご開業の田中憲一先生のセミナーを開催する事になりました。

当日は材料の詳細な特徴と選択基準、接着の理論と実際、形成、治療手技、またインプラント症例までを含めた盛り沢山の内容で、オールセラミック臨床の最新情報を報告いたします。



② ジルコニア フルカントゥア クラウン

オールセラミック臨床の最新情報セミナー

日時 平成31年 1月 27日 (日)
10:00～12:30
(受付 9:00～10:00)

会場 グランフロント大阪
北館TowerB 10階 カンファレンスルーム B01

定員 50名 (対象: 歯科医師、医院スタッフ)

費用 3,000円(税込) ※医院スタッフ様は無料

こんな感想をお持ちの先生方におすすめ致します

- ◆オールセラミック全般の現状、最新情報を知りたい
- ◆ジルコニアは硬すぎて、調整やセット後を見ると不安
- ◆メタルボンドには歴史もあり、やはり安心感がある
- ◆フルジルコニアCrは強度に優れるが、色調が良くない
- ◆高強度のフルカントゥアCrは対合歯への影響が心配
- ◆いま一度、〈接着〉について深く学びたい



■田中 憲一先生

1997年 岩手医科大学歯学部卒業
2011年 田中歯科医院開業

- 所属・認定医等 -

日本顎咬合学会 指導医
日本口腔インプラント学会 会員
日本臨床歯周病学会 会員
北九州歯学研究会 会員、日本審美歯科協会 会員
Osseointegration Study Club of Japan 会員、JACD 会員
上田塾 会員、歯科臨床追求会白石組 会員

修復治療の材料は、セラミックス、金属、レジン系に大別されます。それぞれ特性を有し、適材適所に用いることが良好な結果に繋がることは歯科臨床での実績から判断できます。そのことを踏まえた上で審美性や耐久性、生体親和性、さらには技工操作などを考慮し材料を選択しますが、与えられた様々な条件(咬合状態等)の中で悩ましい思いをすることも少なくありません。特にセラミックスを使用した修復治療には、患者・術者両方にとって魅力的な要素が多く含まれる反面、強度の点では特に配慮が必要です。私の臨床においては、過去においてPFMクラウンを選択することが圧倒的に多かったのですが、現在ではオールセラミックスクラウンの選択が増えてきています。無論従来から使用されてきたPFMクラウンは長い実績と安定感がありますが、ニケイ酸リチウム(Li₂O₅Si₂)や二酸化ジルコニウム(ZrO₂)を用いた修復物が近年頭角を顕にしてきました。今回は、これらの特性を抽出し一般的に選択基準とされることを確認しながら、症例を提示し私見を述べさせていただくことで、皆様の臨床の一助となれば幸いです。

田中 憲一

お申込み・お問い合わせ

別紙申込用紙にご記入頂き、FAX、TEL、またはHPからお申込み下さい。



<http://www.aishi.jp/>

愛歯

検索

【株式会社 愛歯 大阪・兵庫営業所】

TEL 06-6428-5839

FAX 06-6428-6089